【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年3月11日(2010.3.11)

【公表番号】特表2005-528819(P2005-528819A)
【公表日】平成17年9月22日(2005.9.22)
【年通号数】公開・登録公報2005-037
【出願番号】特願2003-572127(P2003-572127)
【国際特許分類】
Ｈ０３Ｈ　7/09　(2006.01)
Ｈ０１Ｐ　1/20　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　1/38　(2006.01)
Ｈ０１Ｆ　27/00　(2006.01)
Ｇ０６Ｋ　19/077　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０３Ｈ　7/09　Ｚ
Ｈ０１Ｐ　1/20　Ｚ
Ｈ０４Ｂ　1/38
Ｈ０１Ｆ　15/00　Ｄ
Ｇ０６Ｋ　19/00　Ｋ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成22年1月15日(2010.1.15)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
集積回路（ＩＣ）チップ上に形成されるバンドパスフィルタであって、該バンドパスフィルタは、
入力信号を受信してハイパスフィルタリングを提供することができる、前記ＩＣチップ上に形成される少なくとも１組の金属スパイラルを備える変圧器と、
前記入力信号を受信して変圧器のインダクタンスと共にローパスフィルタリングを提供することができるキャパシタと、を備え、
前記バンドパスフィルタは、ハイパスフィルタリングとローパスフィルタリングとをカスケード接続することによってバンドパスフィルタリングを提供し、
前記金属スパイラルは、一方がもう一方の上に積み重ねられることによって、前記ＩＣチップ上に変圧器を形成し、
積み重ねられた前記金属スパイラルのトップのスパイラルの金属の幅およびスロット幅が前記積み重ねられた金属スパイラルのボトムのスパイラルの金属の幅およびスロット幅よりも小さく、前記ボトムのスパイラルと同じエリアを占めながら前記トップのスパイラルのターン数が前記ボトムのスパイラルのターン数に比べて増加することを特徴とするバンドパスフィルタ。
【請求項２】
複数のバンドパスフィルタステージをさらに備え、各該バンドパスフィルタステージはキャパシタおよび変圧器を備え、該変圧器はＩＣチップ上に形成された１組の金属スパイラルを備え、該バンドパスフィルタステージは、カスケード接続されてバンドパスフィルタを形成する請求項１に記載のバンドパスフィルタ。

【請求項３】
前記金属スパイラルは銅スパイラルを備える請求項１に記載のバンドパスフィルタ。
【請求項４】
前記変圧器に直列に配列されたさらなる変圧器を備え、前記さらなる変圧器は、１組の金属スパイラルを備える請求項１に記載のバンドパスフィルタ。
【請求項５】
各前記金属スパイラルは、それらの間に誘電体物質が配置されることによって分離される請求項１に記載のバンドパスフィルタ。
【請求項６】
前記誘電体物質は、酸化ケイ素を備える請求項５に記載のバンドパスフィルタ。
【請求項７】
通信回路が、前記変圧器および前記キャパシタと同じ前記ＩＣチップ上に形成される請求項１に記載のバンドパスフィルタ。
【請求項８】
前記変圧器の変圧比は、１：１～１：２の間である請求項１に記載のバンドパスフィルタ。
【請求項９】
前記ＩＣチップはシリコン基板を備える請求項１に記載のバンドパスフィルタ。
【請求項１０】
前記金属スパイラルは、長方形もしくは正方形の形状を全体として有する請求項１に記載のバンドパスフィルタ。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２１】
図５～７に例示されているように、本実施例および他の実施例における金属スパイラルは、実質的に長方形もしくは正方形の形状を全体として有しており、連続する金属スパイラルは、ストリップとしての各ターンがスパイラルの中心に達したあと、９０度の角度で直線の長さで折れ曲がっている。別の実施例では、金属スパイラルは、実質的に円形などのような形状を全体として有してもよい。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２３】
トップのスパイラルの金属の幅およびスロット幅を、ボトムのスパイラルと同じエリアを占めながらもターン数が増加するよう、減少させてもよい。トップのスパイラルとボトムのスパイラルとは、酸化ケイ素などのような誘電体層によって分離してもよい。変圧器３１０の変圧比は、例えばおよそ１：１～およそ１：２の間でよい。高いＱは、スパイラルを製造する金属として銅を使うことによっても維持することができる。銅のスパイラルを使うことは、例えば、従来の設計でアルミニウムのスパイラルを使うよりも一般的にＱ特性がよい。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】図面
【訂正対象項目名】図７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【図７】

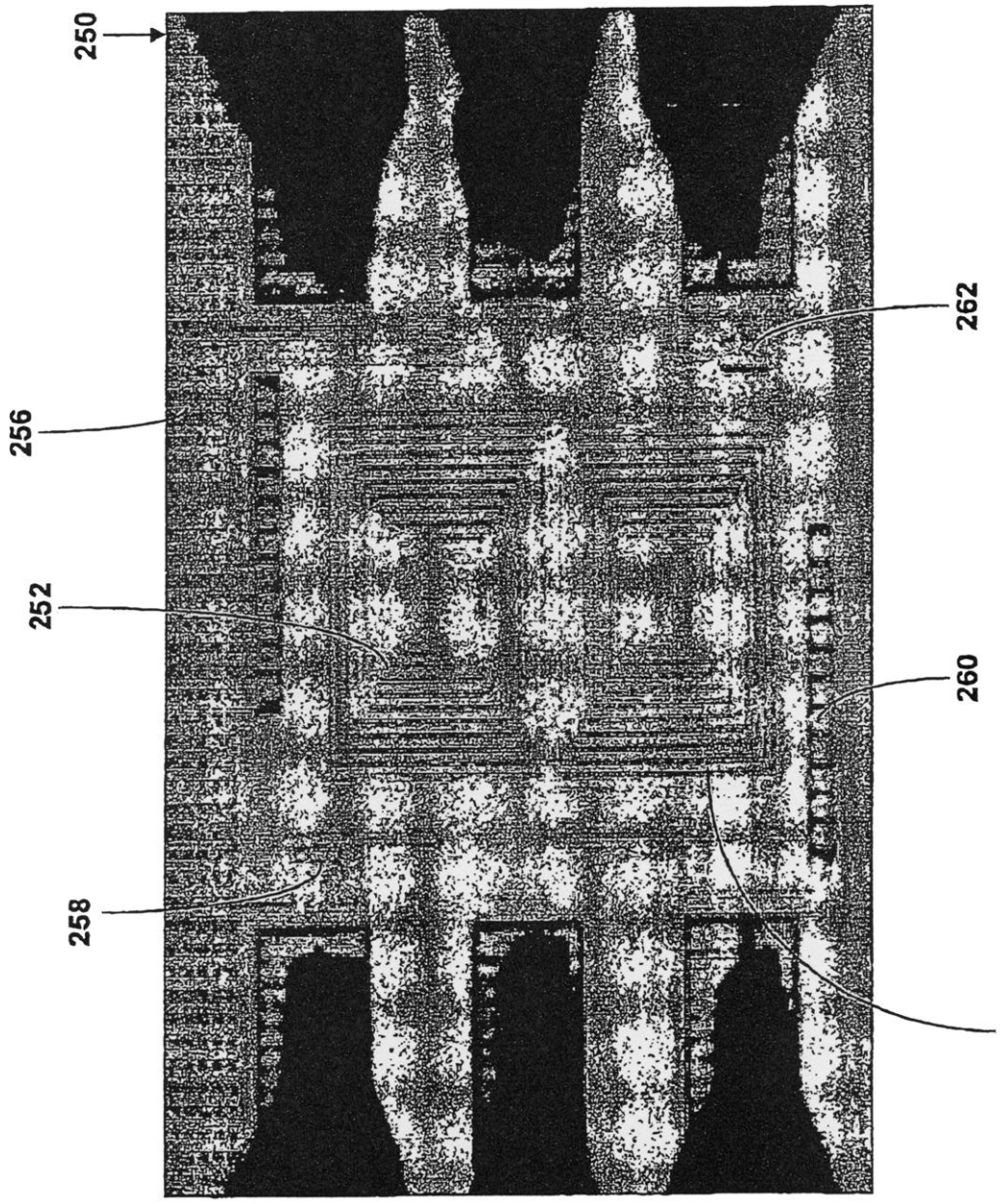


FIG. 7